

第46回全日本高等学校書道教育研究会愛媛大会 教育長祝辞

令和3年10月20日（水）

県庁第一別館10階教育委員室（オンライン）

第46回全日本高等学校書道教育研究会愛媛大会が開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

また、本日、御参加の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に最大限配慮しながら、書道教育の充実、発展に御尽力いただいておりますことに、深く敬意を表します。

さて、御案内のとおり、令和4年度から実施される高等学校の新学習指導要領では、書道について、「書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。」という目標が示されています。

学校現場では、GIGAスクール構想が前倒しされ、1人1台端末の導入をはじめ、学習のデジタル化が急速に進展しておりますが、そうした中だからこそ、実際に見る、聴く、触れるなどの身体感覚を働かせ、感性や創造性を磨く文化芸術の意義が一段と輝きを増すものと考えます。

Society5.0時代に向けた教育としても、「STEAM教育」をはじめ、芸術系教科には大きな期待が寄せられており、ICTも活用しながら、互いに学びを深め、自分で考え表現する力を高めていっていただきたいと思います。

さて、今年は、本県松山市出身で「伊予三筆」と称される三輪田米山（みわだ べいざん）生誕200年記念の年でもあり、愛媛県美術館等で、様々な企画が催されております。米山は、江戸時代から明治にかけての激動の時代にあって、和漢のあらゆる学問を修め、書においては王羲之（おうぎし）を理想としながら、見る者を圧倒する独自の書風を確立しました。

皆様に愛媛へ御参集いただくことが叶わず、近代書の先駆として名高い、米山の酔余（すいよ）の書を、直接鑑賞いただけないことは残念でございますが、先の見通せない時代といわれる現代に米山の書に向き合いますと、改めて、芸術の持つエネルギーや、人々の心に与えるインパクトの大きさを実感する次第であります。

本大会では、「文字文化と豊かに関わる書道教育～書の見方・考え方を通した深い学び～」をテーマとし、生徒の豊かな感性や創造性を育み、実社会での課題解決につながる資質・能力を育成するための書道教育について、研究・協議が行われます。

高校での学びが、子供たちの心豊かな人生につながるよう、実り多い議論を期待しております。

結びに、本大会の開催に当たり、御尽力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

すとともに、御参加の皆様の御健勝・御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。